

デジタル濁度計 500

使用法

型式 DPM2-TB500

LED(波長615nm)による濁度測定
Transmitted-light turbidimetry with LED(615nm)
ホルマジン標準液による
測定範囲 20~500度
測定方式 透過光測定法

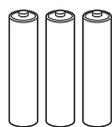
梱包内容



本体
(1台)



ガラスセル瓶
(2本)



動作確認用
単4アルカリ乾電池
(3本)

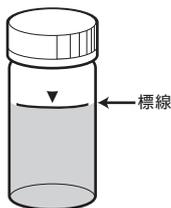


取扱説明書
(1部)

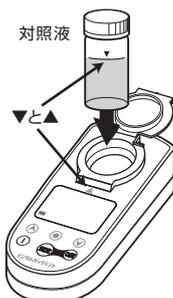


使用法
(1部)

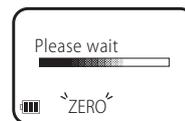
測り方



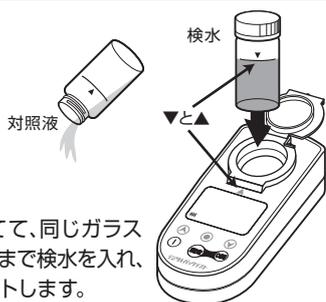
① 対照液(純水または水道水)をガラスセル瓶の標線(10mL)まで入れます。



② 長押しで電源を入れます。ガラスセル瓶の▼を測定部の▲に合わせてセットします。



③ 0調ボタンを押します。ゼロ調整終了後、ガラスセル瓶を取り出します。



④ 対照液を捨てて、同じガラスセル瓶の標線まで検水を入れ、測定部にセットします。

⑤ 測定ボタンを押します。



⑥ 濁度が表示されます。



特徴

本製品は、LEDを光源とした615nmの透過光量を元に、内蔵検量線から20度以上の濁度(ホルマジン)を表示する測定計です。対照液は、純水を基本としています。その他の液を対照とする場合は、表示濁度値の換算をお勧めします。製造ラインにおける懸濁液や工場排水、浄化槽など各種検水の濁度の日常管理に用いることができます。

本製品は、試薬(パケット)による発色の吸光度を測定するデジタルパケットを濁度測定に利用した測定計です。同梱の取扱説明書は、パケットを用いる場合の使用に合わせて記載しています。

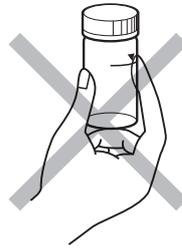
デジタル濁度計500

測定に関する注意

1. ゼロ調整に使用するガラスセル瓶と測定に使用するガラスセル瓶は同じものを使用してください。
2. 検水に着色(特に青色)があると、測定誤差を生じることがあります。
3. 検水は、振とうなどして均一にしてからガラスセル瓶に移して、測定してください。
4. 懸濁物質の粒子径等により、標準液と測定値が一致しない場合や、機差が生じる場合があります。
5. 測定範囲の上限値を超えた場合、上限値と「OVER」が交互に点滅し、下限値未満の場合、下限値と「UNDER」が交互に点滅します。
6. 水温が気温より極端に低い場合、ガラスセル瓶に結露が生じて曇り、測定値が高くなります。
7. ガラスセル瓶内壁に気泡等が付着すると測定値が高くなりますので、付いた場合はガラスセル瓶を指ではじくなどして、できる限り取り除いてください。低濃度側では、誤差が大きくなりますので、特にご注意ください。
8. ガラスセル瓶の転倒、取り忘れ等で本体(特に測定部)に対照液や検水がこぼれないように十分ご注意ください。万一、こぼれた場合には、直ちに拭きとり、軽く水を含ませた柔らかい布で数回拭いてください。
9. ガラスセル瓶がセットされていない時に表示される数値は無効です。
10. 本製品は、LED(波長615nm)により濁度測定を行っており、他の方式の濁度計での測定値とは、一致しない場合があります。現状、他の方法で濁度測定している場合は、あらかじめ相関を確認してください。
11. オートパワーオフは30分に設定されています。

ガラスセル瓶の取扱い注意

1. ガラスセル瓶の▼を正面にした時の側面が測定時の光路となります。測定誤差の原因となるため、光路は手で持たないようにしてください。



2. 測定部にガラスセル瓶をセットするときは、水滴や指紋などの汚れがないように表面をきれいに拭き取ってください。
3. ガラスセル瓶の▼を測定部の▲に合わせてセットしてください。
4. 測定後のガラスセル瓶は、純水で洗浄して保管してください。
5. キズや汚れがついていると測定誤差を生じる原因になりますので、適宜新しいものに交換してください。
6. ガラスセル瓶の材質は以下のとおりです。事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。

本体の材質 : ガラス
蓋の材質 : ポリプロピレン

7. ガラスセル瓶(2本入り 型式 GC2-10)は別売しています。弊社までお問い合わせください。

本体 取扱い上の注意

測定計本体は、耐溶剤ではありません。有機溶媒等を検液とする場合は、十分ご注意ください。